

東日本大震災を経験した不登校児と保護者の 回復過程に係る支援手法のモデル化

人間福祉学科 生涯発達支援系 佐々木美祐

本研究では、東日本大震災以降の岩手県を拠点とした NPO 法人の学習支援活動を中心に、年代を経た経過と支援手法、成果、課題の 3 点から不登校児童・保護者に与えた影響を検証し、保護者・SSW の経験を踏まえ、不登校の原因別に支援手法をモデル化することを目的とした。

結果・考察では、大震災で変化した学校環境（プレハブ・友人・担任・学級数）、コミュニティ、家庭環境が児童生徒に、複合的課題を表出させた。コミュニティ課題では、SSW の家庭訪問を仮設内では行わないように配慮したこと、不登校児には適応教室や学習支援室を紹介し、仮設コミュニティからの非難的視線を避ける方法が選択された。また、学習指導に先立ち、生活指導の効果により学習能力も向上した。

不登校児を持つ母親は、閉塞感が高まる傾向が見られた。家庭以外のさまざまな外部機関とつながりを持つことにより、母親自身の閉塞感が打開でき、将来行動に見通しをつけることが出来るようになった。